

電機・情報ユニオン

2018年1月10日 第75号

発行 電機・情報ユニオン

〒142-0043 東京都品川区二葉

2-20-8染野ビル2F

Tel03-6421-5323、Fax03-6421-5324

Email: denkiunion@gmail.com

職場を基礎にした労働組合活動を進めよう 全組合員の力で、飛躍の2018年に



森英一中央書記長
新年あけましておめでとうございます。
新年をどのような気持ちで迎えましたか。
米田徳治中央執行委員長
新年おめでとうございませう。今年もみんなで力を合わせて頑張っていきたいと思っております。
昨年12月27日に日立関連の団体交渉を行い、さらにパソナの雇止め問題で労働局への申出と働きかけを行うなど、年末ぎりぎりまで組合員の生活と権利、職場の自由と民主主義を守るための運動に取り組むこととなりました。
今年も電機産業の大リスクは止むことなく進む情勢ですので、これまでの取り組みの教訓を生かし、「職場を基礎にした労働組合活動を進めていくことが重要だ」と、思いました。

企業業績は好調のなか リストラ策が進行

森 電機産業の動向やリストラの状況は、いかがでしょうか。

米田 集計している電機大企業36社の2018年上期決算のデータでは、個々の企業業績を見ると黒字企業と赤字企業がバラバラの状態です。

集計では、売上高は32兆1612億円（前期比8.3%増）、営業利益は2兆1825億円（前期比50.8%増）、純利益は1兆3229億円（前期比44.3%増）です。

2018年3月期予想も、売上高71兆6665億円（前期比12.9%増）、営業利益4兆6282億円（前期比32.4%増）、純利益2兆5180億円（前期比171%増）と、いずれも前年を上回る予想です。もう一つの指標である、電子製品の輸出は前年を上回る予想で企業業績は好調です。

しかし、寄せられる労働相談の実態は、企業業績とは関係なく、日立のように

黒字・常時リストラが職場で吹き荒れています。外資系の企業であるGEヘルスケアでは、黒字なのに技術部門を日本から撤退・閉鎖することが労組（JAM系）に提案されました。早速、「封書付のリストラアンケート」を配布し実態調査に入っています。

東芝では粉飾決算の後始末を労働者犠牲で乗り切ろうとしています。一番の稼ぎ頭であるメモリ事業を売却して資金を調達。さらに、「人員削減が目的でない」とした事業再編（会社分割）によってできた、「東芝デジタルソリューション」では、営業利益率5%目標（2018年中期）達成のために、「収益構造の改善」「スリムで強靱な体制」を目的とする会社から労組への提案なのに職制による説明会を開始。組合員への影響は必至なのに職場討議は棚上げして、1月中旬から4186人の中から職場ごとに「再配置の候補者名簿」が作られ、面談を開始。さらに、労働者の分布（46歳以下に集中図）を示して、今後「5年後、10年後には

急速に高齢化」が進むとして、53歳以上を対象にプレミア付の3月末の希望退職を募集するという「労働者犠牲の会社の身勝手な攻撃」が始まっています。

労働組合の立場から 電機産業政策を立案

森 昨年の1年間を振り返り、前進面や成果などはいかがでしょうか。

米田 リストラが依然として止まらない中で、労働者は極限まで追い詰められています。企業・会社から受ける攻撃とどう闘うかにかかっています。
(2面に続く)

第76号の紹介

- 1面 米田委員長の新春インタビュー
- 2面 米田委員長の新春インタビュー
春闘アンケート2万3366枚を配布
- 3面 ルネサス、三菱電機は争議の解決をはかれ
- 4面 告知板、交流のひろば